

子どもたちが活躍するためのキーワード

子どもたちには **合理的配慮** を求める権利があります。

合理的配慮とは、困難のある人が、困りごとやバリアーを取り除くための変更や調整を求めたときに、まわりの人ができるだけ対応することです。それは、困難のある人に **公平なアクセスを提供するもの** であり、不当な利益をもたらすものではありません。

対象となる人 小児がんの治療を経験して、生活に制限を受けている人

STEP 1 本人に聞いてみよう

- ・先生の近くに座ったほうがいいですか？
- ・試しに教室でオーディオブックを聞いてみますか？
- ・キーボードで作文を入力してみますか？

STEP 2 親や先生に聞いてみよう

- ・テスト時間の調整はできますか？
- ・宿題の1問目だけ一緒に解いてもらえますか？
- ・体育は代替課題で成績をつけてもらうことはできますか？

STEP 3 理由を明確にして、配慮を決めよう

読み

- ・子どもの読む分量を小さく区切る
- ・子どもは文字を読みながら、教科書の読み上げソフトで聞く

筆記

- ・子どもは教科書や黒板から問題を書き写さず、問題が書かれた用紙をもらう
- ・タブレットで作文を書く

算数

- ・1ページに1問だけ書く
- ・子どもは理屈を理解したら、電卓を使わせてもらう

計画性

- ・子どもは予定表を作るのを手伝ってもらう
- ・繰り返しの連絡事項は、連絡帳にあらかじめ貼っておき、チェック形式にしてもらう

宿題

- ・クラスメイトと同じ時間で取り組める宿題の量に調整してもらう
- ・見本をつけてもらう

MEET YOUR SUPPORT

学校でいきいきと過ごすために



認知機能の検査と適切なサポートのステップ



小児がんを経験した子どもたちは、病気が治っても、何年か経ってから不調が現れることがあります。これを「**晩期合併症**」といいます。晩期合併症は、体だけでなく、頭のはたらきにも影響を与えることがあります。そのために勉強や友達との関係がうまくいなくなることがあるかもしれません。しかし、早めに認知機能検査を受け、晩期合併症の兆候を見つけることで、学校からのサポートを得やすくなります。その結果、子どもたちは安心して、いきいきとした学校生活を送ることができるでしょう。



STEP 01

晩期合併症にはどんなものがある？

1 勉強についていけない

特に国語、算数、理科、社会などの試験を伴う学習で困難を示すようになります。

2 活動の速さについていけない

着替えがマイペースであったり、給食や授業の準備に時間がかかるなど、学校生活のスピードに圧倒されて、ついていけないときがあります。

3 先生や友だちの話についていけない

会話に入っていけなかったり、適切なタイミングで応答ができなかったりするかもしれません。

4 忘れ物が多い

家から持ってくるものや学校から持ち帰るものを忘れたりします。

5 聞き洩らしや聞き間違いが多い

その場で訂正してもらえることが少ないため、誤解や勘違いになって、間違った行動をするものになります。

6 読み書きや計算が難しい

授業中、黒板を写すのが間に合わないかもしれません。読み書きや計算もついていけないことがあります。



認知機能検査ではどのように現れる？

知的能力全般が低下しているかもしれません。その場合、知能検査のIQ (WISCではFSIQ) が低くなります。あるいは、読み書きにつまずいて勉強しづらくなっているかもしれません。その場合、読み書きの検査で低い得点が現れます。

WISCの処理速度指標の得点が低くなります。片付けや着がえが遅いお子さんは、WISCでは視空間指標の得点が低く、上下左右や形の捉え方が苦手であるかもしれません。

言葉の理解が不十分な場合、WISCの言語理解指標で得点が低くなることがあります。また、話題についていけない場合は、ワーキングメモリー指標の得点が低くなることがあります。WISCには現れずにほかの検査が必要な場合もあります。

WISCではワーキングメモリー指標の得点が低くなることがあります。しかし、ADHDの不注意症状がある人は、ワーキングメモリー指標が低くなくても忘れ物をします。

WISCでは聴覚ワーキングメモリー指標の得点が低くなることが多いです。しかし、聴覚ワーキングメモリーが弱いのか、言語障害や聴力低下があるのか、聴覚情報処理障害 (APD) が原因なのかは、追加検査で明らかにしましょう。

WISCでは処理速度指標や量的推理指標の得点が低くなることがあります。しかしそれだけでは作業が遅くてついていけないのか、数的な概念が理解できないのか、原因がわからないため、KABC-IIや読み書き障害の検査の追加をお勧めします。

学校ではどんなサポートが得られる？

検査結果を参考に、まずは担任の先生に相談し、能力に合わせて学習目標を見直してもらいましょう。

授業やテストでの制限時間を延長してもらったり、宿題の量を減らしてもらいましょう。



図表を使ったり、易しい言葉で説明してもらうように学校の先生に依頼しましょう。子どもは「もう一度言ってください」と尋ねる練習もしましょう。

以下のようなサポートを学校と相談してください。

MEET YOUR SUPPORT

持ち物のチェックリストをつくって、学校に行く前に確認しましょう。学校ではだれかと一緒に確認してもらおうのも助けになります。

集中して聞ける静かな教室を利用したり、ボイスレコーダーを使って録音させてもらいましょう。ただし、耳鳴りがする人は、小さなBGMが流れている方が集中できることもあります。

マルチメディア教科書、ICTの読み上げ機能や音声入力、計算アプリを利用しましょう。タブレットで黒板を撮影して、内容の理解に時間をかけてみましょう。

学ぶ内容の変更

学ぶ方法の変更

STEP 02

STEP 03